

西部センターだより 4号

H27.3.16

島根発から全国へ情報発信

大田市内の中学校に3年間勤めたことがあります。校区には、石見銀山があります。着任した当時は、世界遺産登録1周年という大変おめでたい年に当たりました。市長さんも学校に駆けつけられ、世界遺産登録を祝う特別給食（市内の全小・中学校での統一メニュー）を生徒たちと一緒に召し上がられました。地元の食材である梅、三瓶牛、魚などをふんだんに使った献立でした。

さて、この石見銀山のお膝元に大変注目されているものづくりの会社があります。昨年12月に創業40周年目を迎えた中村ブレイス株式会社です。創業者は、以前に県教育委員会の教育委員長もなさった中村俊郎さんです。着任のご挨拶に伺った折に、わざわざ職場の中を案内していただきました。驚いたのは、働いている方々の多くが大変若いことと黙々と自分の仕事をされている姿勢でした。中村さんがおっしゃるには、県外からの若者を雇用するだけでなく、地元の若者（私が着任した中学校の出身者もちろんおられ、紹介されました）も必ず雇用していますとのことでした。

帰りがけに応接室に招かれ、そこで数冊の本を学校に寄贈いただきました。その一冊が「日本で一番大切にしたい会社」（著者：坂本光司 氏）でした。その本の中に、中村ブレイスも載っていました。中村さんが、一人で京都やアメリカに渡って義肢装具の技術を身につけ、地元大森町へリターンして会社を起業される過程が書かれてあります。事故や病気が元で身体の一部である手足をなくされた方や女性にとって大切な乳房をなくされた方はたくさんおられます。そうした方々のために、一つ一つの製品を手づくりする会社です。「人に役立つ仕事をしている」、「社会に貢献できる仕事をしている」という気概をここで働く若い人たちの姿勢から感じました。

最近では、連日のように「少子高齢化」「人口減少」「地方消滅」などといったあまりうれしくない記事が新聞に掲載されます。こうした問題は、大森町にも無縁なことではありません。けれども、多くの若い人たちが県内外から集まり、ここに暮らしながら、結婚や子育てをしておられます。人々が生活をする上で欠かせない雇用・教育などの環境が整えられている証拠です。こうした環境を創ることは、安心安全なまちづくりにもつながると思います。生活者の視点で物事を考えて、それを着実に実践されているお手本を中村さんから学びました。大田市は、全国で一番住みたい田舎としてある月刊誌にも取り上げられました。国の施策に振り回されず、地域おこしやまちづくりに奮闘する人や地域が身近にあります。島根を自慢できる人を増やして、全国にアピールしたいものです。

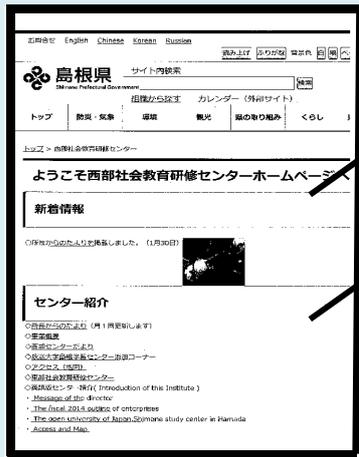
所長 狩野 正夫



西部社会教育研修センターの「ホームページ」をご覧ください！！

検索

西部社会教育研修センター



新着情報

研修・講座案内
研修の成果物等
随時更新します

センター紹介

- ・ 所長からのたより♪
- ・ 事業概要
- ・ 西部センターだより
- ・ 放送大学島根学習センター
- ・ アクセス
- ・ 英語版センター紹介

研修等情報

1. 社会教育にかかわる人材養成研修
その他の研修
2. しまね学習支援プログラムの開発・普及・定着
3. 社会教育の情報提供（社会教育だより）
4. 学習相談
5. 市町村支援

最新の研修情報
・ 研修の様子

今年度の研修計画
業務内容等

毎月更新！

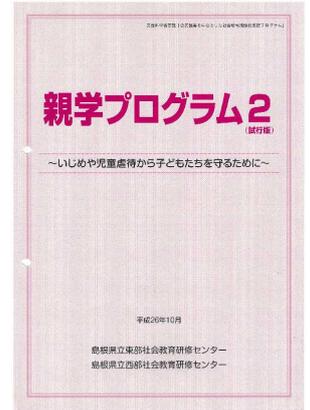
「親学プログラム2」(試行版)のご紹介

家庭教育支援のひとつの手法として活用できる“親向けの参加型学習プログラム”を開発して、そのプログラムを進行できる地域人材（ファシリテーター）を養成する事業を進めています。

平成23年3月に発刊した現行の『親学プログラム』では、“わが子との関係における親の学び”言い換えれば“家庭内における親の学び”が中心となっていました。

今回、開発しているプログラム『親学プログラム2』は、“家庭外における親の学び”“地域社会における親の学び”に重点をおいたものです。

昨年10月に施行版を完成させ、モデル実施を重ね、今年の秋には正式版を完成させる予定になっています。



ファシリテーター養成講座

会場

H26年度の取り組み
 浜田 (11/7) : いわみーる
 江津 (11/26) : 江津市地場産センター
 益田 (12/10) : 益田合庁

内容

- <説明Ⅰ> 新プログラムの概要
- <講義Ⅰ> いじめの正しい理解
 講師：教育事務所指導主事
- <講義Ⅱ> 児童虐待の正しい理解
 講師：児童相談所 判定保護課
- <説明Ⅱ> 新プログラム開発の趣旨と方向性
- <説明・演習説明Ⅲ> <意見交換>

受講者の声

受講前は、難しそうに思っていたが、楽しく互いに体験できホッとした。地域全体で子どもたちを見守る事ができれば良いな。

暗い気持ちにならずに話し合ったりふり返ったりできるところが親学の魅力ですね。



モデル実施

邑南町立石見東小学校 PTA 研修会 (1/22)

プログラム「ネットいじめから子どもを守る」

保護者と先生が一緒にグループで“ネットいじめ”の特徴や危険性をラベルに書いていきました。その後、ネットいじめから子どもを守るためにできることを考えていき全体に広めました。

大人に見えにくい

ひぼう・中傷

匿名性

危険性

個人情報の流出・拡散

子どもの友だち・親とつながる

しっかり会話

守る

親子で正しい使い方を学ぶ

きちんと設定



島根県 PTA 連合会母親委員会研修会 (2/1)

プログラム「オトナの役割を考える」

子どもの様々な生活場面を想定して、“わが子・知っている子・知らない子”に対してのかかわり方・叱り方を親として、一人の大人として考えていきました。

例)「●●が店の中で友だちと追いかけてこを始めた」 ●●が、

- ・あなたの子どもなら
- ・知っている子どもなら
- ・知らない子どもなら

あなたの対応は?

その場で言う

かかわり方は?

場合によっては見守る

知らない子をつくらない

信頼関係がないと伝わらないね・・・

* この一年間、皆様より西部社会教育研修センターに対しまして、ご支援、ご協力いただきましたこと、厚くお礼申し上げます。来年度も引き続きよろしく願いいたします。

